

第1回 国立競技場将来構想有識者会議 議事録

日時：平成24年3月6日（火）16：00～17：00

場所：国立霞ヶ丘競技場 3F ラウンジA

出席：安西委員、安藤委員、石原委員、遠藤委員、小倉委員、佐藤委員、鈴木（寛）委員、鈴木（秀）委員、竹田委員、都倉委員、鳥原委員、森委員、岡崎氏（張委員代理）、澤木氏（河野委員代理）
奥村文部科学副大臣、久保スポーツ・青少年局長、小林国土交通省大臣官房審議官

【河野理事長】 スポーツ界長年の夢であった国立競技場改築の方向性が決まり、国から調査費がついた。2019年ラグビーワールドカップ日本大会が決定している。また、2020年東京オリンピック招致が進んでいる。この2つの大会で国立競技場をメインスタジアムとして位置づけていただいた。今の競技場は、1964年東京オリンピックのレガシーとして国内外からの評価も高い。しかし、この国立競技場も建築後54年が経過しており、国際連盟のルールやホスピタリティなどを考えると、改築せざるを得ないと考えている。改築するのであれば、世界に誇れるもの、日本から発信できるものを造りたい。今日お集まりの有識者の皆様にご議論いただき、なんとしても成功させたい。

●河野理事長より出席委員の紹介

安西委員、安藤委員、石原委員、遠藤委員、小倉委員、佐藤委員、鈴木（寛）委員、鈴木（秀）委員、竹田委員、都倉委員、鳥原委員、森委員

●代理出席者の報告

岡崎氏（張委員代理）、澤木氏（河野委員代理）

●陪席者の報告

奥村文部科学副大臣、久保スポーツ・青少年局長、小林国土交通省大臣官房審議官

●奥村副大臣挨拶

【河野理事長】 ありがとうございます。会を進めるにあたり、事務局として、佐藤禎一委員に委員長をお願いしたいと思います。

（異議なしの声）

【佐藤委員長】 文字通り身も縮む思い。お世話係と心得て誠心誠意つとめたい。

●安西委員に副委員長をお願い。

(異議なし声)

【佐藤委員長】 将来構想とワーキンググループの設置が議論になる。河野理事長から説明を頂戴して委員の皆さんから意見を頂きたい。早速であるがよろしくお願ひします。

【河野理事長】 まずは、資料3の論点について説明します。新しい競技場に求められる要件について、各方面からの意見をもらいつつまとめたところです。

規模については、8万人規模をスタートラインに。参考資料の「国立霞ヶ丘競技場の八万人規模ナショナルスタジアムへの再整備に向けて(決議)」を見ていただきたい。これが公に目にされている最近のものであり、これを根拠としたい。オリンピック、パラリンピック招致申請ファイルにも同様の記載。

次に、ラグビーはサッカーと同じフットボールスタジアム。陸上はメインスタジアムに。サブトラックが必要になる。8レーンしかないことが問題であり、フットボールサイドから見るとトラックを通しての観戦は臨場感に欠ける。

敷地の問題もある。8万人規模だと現在国立競技場の建っているところだけだとはまらない。明治公園、青年館についても敷地として考えることが必要になる。

IOC、ワールドカップでもホスピタリティスペースの考え方が1964とは変わっている。最近バックヤードにキッチンが設けられているなど、世界レベルのホスピタリティスペースが必要要件である。

4番目であるが、スポーツの競技場であるが、これだけの規模のスタジアムは文化発信の場としても貴重。3大テノールも注目を浴びた。そのとき以来重要性を増した。全天候型のスタジアムも要検討になる。多様な利活用形態によって「稼げる」スタジアムにすることも検討していただきたい。

資料4 A3 非常にスケジュールがタイト。2019のワールドカップは決定しており、同時に、オリンピック招致の立候補ファイルについては、2013年年明けに提出する必要がある。競技場の建替えはポジティブな要件となると思われる。予算要求のこともあり、4月に入っては遅いので年度内の会議体としてスタートさせたい。

皆様から異論がなければこれらを前提としてスタートさせていただきたい。

次に課題となるものを説明させていただきたい。

参考資料5 現在競技場の立ち位置が赤いところだが、8万人規模ということになると、左側の明治公園、右側の明治公園、青年館までが建設敷地となる。今後、具体的な行動が必要となる。

同時に、アクセスについて、ラグビー、サッカーのワールドカップについてはアクセスが重要視される。千駄ヶ谷駅、信濃町、地下鉄の外苑前。これだけ3つの公共機関が整っている場所はなかなかなく、強みになるが、バリアフリーの観点では様々な課題もある。このような観点からもご議論いただきたい。駅からスタジアムまでの雰囲気も重要で、全

体の「面」としての考え方も必要である。

また、財源についても重要なことである。日本スポーツ振興センターは、totoを運営している。実施主体として建て替えを進めていくことも必要であると同時に、売上を増すような、たとえば、通年化など、その他についてもご検討いただきたい。

税制については、文化事業などの実施の際、税制などについても課題があると聞いている。前提として、ここは大規模な素晴らしいロケーションとして整備したいと考えているのでご配慮いただきたい。

【佐藤委員長】 今から順次ご意見を伺いたいと思います。要件については既に関係の皆さんとの意見交換をしていると聞いていますので、これからお聞きするのは、追加のご意見とあわせて大枠としての確認を頂きたい。

【森委員】 サッカーの場合は？

【小倉委員】 8万人という基準になっている。

【石原委員】 主催地の東京として頭の痛い問題がある。考えている以上に時間がない。建て替えだけではなく、神宮外苑地区全体の構想が必要だと考えているおり、明確な国家プロジェクトとして位置づけてほしい。

都としては都市計画法、関係3区なりのマスタープランもある。区の自主性も重んじなければならぬ。したがって、東京都だけでは進められないところもあるので、具体的なことなどはすぐに始めないといけない。

【森委員】 石原さんの話は大事なことである。

【森委員】 どこが関係しているのか？港区、新宿区と渋谷区か。

【石原委員】 近隣に都営住宅があり、移す予定もある。

【森委員】 日本青年館は小里理事長からも全面協力の話をいただいた。これは文部科学省にも周知していただきたい。

【小倉委員】 球技が開催できるスタジアム。サンドニスタジアムは、座席が移動するので臨場感がある。8万のうち約2.5万が可動式。日本の技術なら十分可能ではないか。また、新しい要件として、災害時の避難場所の位置づけを明確にしてはどうか。帰宅困難者の受け入れなど、トイレが多いなど、スタジアムの特性を活かした、そういうことの強調も必要である。

【石原委員】 東京ドームは可動式で、自転車競技ができる。臨場感としてはスライドの座席を考えてもらいたい。日本の技術なら出来るであろう。

【安藤委員】 スケジュールはこのままでは厳しいが、国を挙げてやるからには相当思い切ってやらなければならない。日本が元気だな！ということを見せる必要がある。スケジュールが短いので思い切った決断が必要。難しいことはおおいと思うが。

【都倉委員】 文化発信の関係で呼ばれていると思うが、オリンピックの開催都市に出来た施設でのコンサートは多い。8万人のキャパをエンターテイメントに使うのは魅力的

であるが、大前提となるのはインフラの整備である。ビートルズ来日したとき武道館に行ったが音響は感心したものではない。専用の音響調整、照明設備が必要だと思う。スポーツとは全く違ったことが必要で現場の専門家との擦り合わせが必要。

【鈴木（寛）委員】 国家プロジェクトという位置づけである。国際大会の招致については、スポーツ基本法にも規定してある。totoも必要があれば、改正も含め超党派で考えて行きたい。

【遠藤委員】 スポーツ基本法を作ったが、いままでは、国が直接開催については規定されていなかった。本法律により政府保証もされた。

サッカーくじは今回の税制改正の中で宝くじが当せん金を引き上げた、インターネットで買えるようになった。サッカーくじの財源はスポーツ界にとって大変重要である。今後、通年、新たなくじも含めて検討したい。スポーツ議連で議論するか分からないが、文科省と一体で行いたい。

【竹田委員】 招致を成功させるためには、競技場が重要。IOCではオリンピックのレガシーを重要視している。今後50年も含め100年のレガシーを作ることができるのは、招致に当たって重要なコンセプトになる。日本のスポーツ界にとって大変重要である。8万人の出入りなど、VIP等々アクセスが重要であり、駅へのアクセスも重要。

【鳥原委員】 パラリンピックの視点からは、周辺関連施設含め、世界一のモデルになるようなバリアフリーの施設にする必要がある。そういう視点で、最寄り駅からメインエントランスへの段差のない広い通路やメインフロア、グラウンドフロアを行き来できる広いエレベーターなどの設置、広い観客席やトイレ、関連の施設において、もっとも進んだバリアフリー施設を造っていただきたい。選手、競技関係者、観客、いろんな視点で障がい者の意見を吸収し議論に反映させたい。

【鈴木（秀）委員】 アンチドーピングの立場からの意見として、WADAが発足したのは最近であるが、ドーピングに関わる機能は必要である。

ドーピングコントロールについてのスペースが必要であることと、ドーピングは選手を守る必要がある観点から、メディアからプライバシーを余分な形で妨害されないようなつくりを検討いただきたい。

【張委員代理（岡崎）】 スポーツ界のシンボルとなる競技場が改築されるのは喜ばしい。タイムスケジュール的に、オールジャパンの体制で進めないと間に合わない。

【河野委員代理（澤木）】 3点ある。文科省においては、以前、建て替えについてかなり議論されてきた。今回拝見すると全く規模が違う。驚いた。

ドームの競技場に、という話もあるが、これだけ大きな競技場を全天候にということもあるが、日本では札幌ドームの例もある。

学生の陸上競技は地方では盛んであり、全日本学生は地方でやっている。オリンピック競技場があればそこでやりたいというのが学生の気持ちではないか。ぜひ壮大な計画が達成できるようにしたい。

【安西委員】 2020年を考えると、若い世代にがんばってほしい。東京のど真ん中にそういう施設が欲しい、国家として、これからの時代に向けたプロジェクトとしての位置づけが必要だ。省庁を超え、時間は短い、ぜひ、記憶に残るそういう場所になってほしいと思っている。代々木体育館は記憶に残っている。そういうものが受け継がれるといい。

【佐藤委員長】 いろんな観点から意見をいただいた。改めて、時間がない中、国家プロジェクトとしての位置づけが重要だと再認識しなくてはならない。国家プロジェクトという観点から、今後、様々な関係者とどのような話をしていくのか、皆さんの知恵が必要だと感じた。

個別には詰めて行かなくてはならない点があるため、ワーキンググループを設置し、専門的な観点からも必要な手順を踏みたいと考えている。資料5にWG設置要綱案がある。当面、施設建設／施設利活用の二つを作りたい。グループごとに知見を有する人を指名し、それぞれを座長に推薦したい。座長にはWGの審議結果を報告してもらおう。基本的には専門家グループになるが、有識者会議の委員にも出席できるようにしたい。庶務はスポーツ振興センターでやっていただく。ご了承いただけるか。

(異議なし)

【佐藤委員長】 建築は安藤委員に、利活用は都倉委員にお願いしたいと考えている。都倉委員は利活用の第一人者である。スポーツに関する人も必要だと考えている。

【森委員】 スポーツと文化にわけたらどうか。

【佐藤委員長】 3つ作るということで、スポーツ利活用、文化利活用、施設。さて、スポーツ利活用については、森委員からご推薦はないか。

【森委員】 一番使うのはサッカー、その次はラグビーだと思われる。

【佐藤委員長】 それであれば、小倉委員にお願いしたい。各ワーキンググループの開催については都度、お知らせする。その際は、都合がつく限り出席していただきたい。

なお、これから記者会見を予定している。本会議全体は非公表の会議との位置づけとしている。内容等の取扱については、十分、ご留意願いたい。